総務文教常任委員会　委員長報告

令和８年９月１８日（金）

それでは、総務文教 常任委員会の報告をさせていただきます。

総務文教常任委員会は、会期中の９月４日、並びに閉会中の７月２９日に開催し、付託されました議案５件及び所管事務調査事項等について審査、協議を行いましたので、その概要並びに結果等をご報告いたします。

初めに、議案第２９号柳井市認可地縁団体印鑑条例の一部改正についてです。

執行部から補足説明の後、委員から、具体的な改正内容を問う質疑に、個人情報保護の観点から、認可地縁団体の代表者等の住所の告示を廃止し、登録証明書等の台帳の写しについても原則非表示とする国規則の改正に伴う所要の条例改正であるが、代表者ご本人からの申し出があった場合は、これまで通り住所を表示したものを交付できるとの答弁がありました。

以上、慎重審査の結果、議案第２９号は、全員異議なく、原案のとおり可決と決しました。

次は、議案第３５号柳井市県収入証紙購入基金条例の廃止について及び議案第３６号財産の取得についてです。

これらの２議案について、執行部からの補足説明の後、委員から特に質疑はなく、いずれも、全員異議なく、原案のとおり可決と決しました。

次は、議案第３７号財産の取得についてです。

執行部から補足説明の後、委員から、地域によっては児童生徒への１人１台端末の持たせ方等に対して保護者から否定的な意見が見受けられるようである。本市における保護者の反応を問う質疑に、一般的なマスコミ等の情報としては聞いているが、本市においては、そのような具体的な要望等は特にないとの答弁がありました。

以上、慎重審査の結果、議案第３７号は、全員異議なく、原案のとおり可決と決しました。

次は、分割付託となりました、議案第３８号令和８年度柳井市一般会計補正予算（第２号）についてです。補正予算書（９月補正）をご参照ください。執行部から補足説明の後、質疑を行いましたので、その主なものをご報告いたします。

６ページ、繰越明許費に計上された、平郡西地区コミュニティ施設整備事業について、翌年度への繰り越しとなる主たる要因や、３か月ほどの延期で、本当に今後の応札者が見込めるのかという質疑に、中東情勢による資材価格の高騰

や調達難、建築需要の増加に伴う担い手不足に加え、輸送コストや作業時間の制限といった離島の特殊性といった複合的な要因が重なり、現時点で年度内の完了が困難となった。不透明さは解消されていないものの、１２月本契約の締結を目指してまいりたいとの答弁がありました。

１９ページ、1目の一般管理費、１３節の宿舎借上料について、何名分でどの程度の期間を想定しているのかという質疑に、山口県東京事務所に研修派遣している職員１名の、１年分の費用であるとの答弁がありました。

以上、慎重審査の結果、議案第３８号中の本委員会所管部分については、全員異議なく、原案のとおり可決すべきものと決しました。

続きまして、本委員会に係る所管事務調査事項について報告します。

１点目の教育問題についてのうち、不登校についてです。

７月の委員会では、当面の調査課題を学校と家庭、地域、関係機関が、それぞれの役割を踏まえながら連携・協働するための在り方と不登校児童生徒を支援する学校への人的・財政的支援の在り方の２点に決定しました。

９月の委員会では、７月の委員会で決定した２点の調査課題を踏まえ、委員から提出のあった意見をもとに、今後の進め方について協議をし、カテゴリー分類、解決策の選択などを進めていくことに決定しました。

次は、ＩＣＴ教育についてです。

７月の委員会では、現状把握のため、市内小中学校への管内視察を実施することに決定しました。なお、漠然と見学するのではなく、論点を明確にすべきとの意見が出されました。

９月の委員会では、管内視察について、現在、教育委員会事務局と日程調整中であることを報告し、視察項目についての確認、協議を行いました。

次は、２点目の人口問題についてです。

７月の委員会では、同テーマを扱う政策提言検証協議会が７月２８日に設置され、当委員会での調査との内容重複等が懸念されることに伴い、当委員会における人口問題の調査事項を取り下げることが決定されました。

続きまして、本委員会に係る次期閉会中の所管事務調査事項についてです。本委員会として取り組む所管事務調査事項についての協議を行い、教育問題についてとすることに決定いたしましたので、その旨、申し出をいたします。

議長におかれましては、お取り計らいをよろしくお願いします。

続きまして、所管事務事項についてです。

執行部から令和８年熊本地震に係る職員派遣について、令和８年度全国学力・学習状況調査の結果についてなど、会期中、閉会中合わせて、４件の報告がありました。

なお、報告は以上に絞らせていただきましたが、委員から多岐にわたっての質疑がありましたことを付け加えさせていただきます。

以上で、総務文教常任委員会の報告といたします。